

東北視察 全体概要

大坂伊作

出発～仙台入り

9/13 は 18:25 発の飛行機で出雲空港を出発し、伊丹空港を経て 21:00 に仙台空港に到着した。空港近くのレンタカー屋で、予約しておいた車を 2 台調達する。レンタカー屋の事務所には高さ 2m 程度のところに『津波遡上高』というシールが貼ってある。今回の視察中には同類のシール・看板に至るところで目にした。レンタカーでホテルに移動する。この日の晩はホテル近くの焼き肉屋で一杯やり、おとなしく部屋へ戻る。

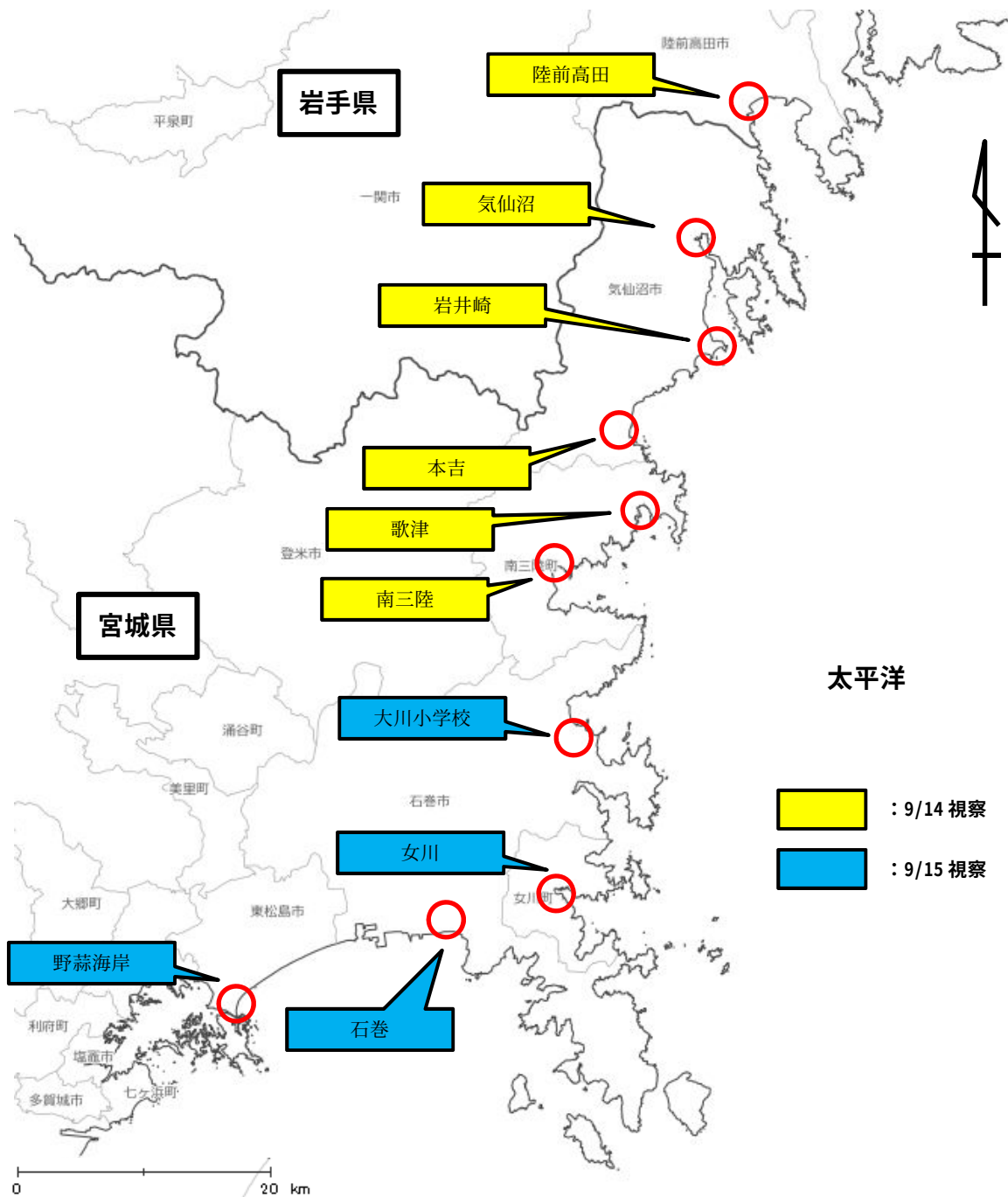


図 1 視察した箇所

視察 1 日目(仙台～陸前高田～気仙沼～岩井崎～本吉～歌津～南三陸)

翌日 9/14 の朝、ホテルロビーにて橋尾さんと合流。久しぶりの再会に心躍る。2 台のレンタカーに分かれて乗車し、橋尾さん先導のもと、岩手県最南端の陸前高田市に向かう。仙台から陸前高田までは、東北自動車道を北進して一関に向かい、そこから県道 19 号、国道 343 号を東進するルートを選択した。仙台から三陸海岸を北上するルートも選択肢としてはあるが、復興工事に伴うダンプの渋滞が頻発しておりおすすめできない。

陸前高田では“奇跡の一本松”を見学する(P.1)。その周辺には津波によって壁がぶち抜かれた 2～3 階建てのコンクリート製ビルが点在する程度でがれきや家はほとんど処理され、何もない。残った一本松が“奇跡の”と呼ばれるのも納得できる。周辺の地盤は一樣に沈下しており、至るところが湿地化している。奇跡の一本松から山側へ目を向けると、UR(独立行政法人都市再生機構)による復興まちづくりとして高台移転事業が進められている。大規模に山を掘削している様は圧巻である(P.2)。



P.1 奇跡の一本松の前で記念撮影



P.2 今泉地区約 42ha の高台移転事業
一山を掘削するほどの大規模な土工が行われていた。

陸前高田からは基本的に三陸海岸沿いを通る国道 45 号を南下することとし、気仙沼、岩井崎、本吉、歌津、南三陸を視察した。

気仙沼は北西方向に細く延びる気仙沼湾の最奥部に位置する。到着後、まず目に飛び込んで来たのは、鹿折地区にある“陸に打上げられた大型漁船”である(P.3)。現在は解体作業中であった。この漁船は震災を象徴するものとして“残したい”という声がある反面、“震災を思い出して辛い”という声や、“管理費が嵩む”という問題があり、解体が決まったそうだ。鹿折地区はテレビ報道でも見られた大火災が発生した場所であり、建物の基礎だけが広がる風景であった。また、この漁船の近くには大手コンビニエンスストアのセブンイレブンがある(P.4)。セブンイレブンは仮設店舗であったが、被災地ではこうした店舗が数多く見られる。震災後に設計されたものであろう。その後、“気仙沼お魚いちば”で腹ごしらえ。東北へ来て初めての海の幸



P.3 打ち上げられた大型漁船



P.4 仮設コンビニ

を堪能する(P.5)。気仙沼市役所周辺の市街地では所々で津波により壁をぶち抜かれた建物が点在する程度で、落ち着いた様子である(P.6)。しかし、市街地より南側の埋立地では多くの建物が消失した状態で放置されている(P.7)。



P.5 昼食の海鮮丼



P.6 気仙沼市役所周辺の様子

気仙沼を 12:30 頃に出発し、岩井崎に向かう。その途中で BRT(バス・ラピッド・トランジット)の路線を見学する(P.8)。BRT は被災した JR 気仙沼線の線路敷を舗装し、バスを走らせているものである。気仙沼線は至るところで被災して寸断されており、この復旧には時間がかかる。電車であれば軌道がすべて復旧していなければ運行できないが、バスであれば線路敷と一般道と併用して走ることによって運行が可能である。線路敷を有効利用し、いち早く公共交通網を復旧できた例である。もし鉄道全線の復旧を待っているようなら、現時点でもまだ通れないだろう。岩井崎は、三陸復興国立公園の最南端に位置する(P.9)。三陸復興国立公園は、東日本大震災により被災した三陸地域の復興に貢献するために平成 25 年 5 月に創設された国立公園である。一見、被災していないように見えたが、松林の高さまで津波は到達したようである(P.10)。



P.7 気仙沼市街地南側の埋立地の被災



P.8 BRT 専用路線
信号機・遮断機が付いている



P.9 岩井崎は三陸復興国立公園の最南端である。



P.10 岩井崎で記念撮影
背後に見える松林まで津波は遡上した。

岩井崎を 13:30 頃に出発し、本吉地区に向かう。本吉地区では津谷川を渡る JR 気仙沼線の橋脚が連続してなぎ倒された様子を見ることができる(P.11)。この場所は河口から約 1km 上流に位置している。橋脚はすべてが上流側に傾倒しており、津波のエネルギーの作用方向がわかる。上部工はすべて流されており、今だに見つかっていない。仮に上流側へ流されているのならその行方はあきらかになるはずなので、おそらく引き波によって海へ流されたのであろう。



**P.11 上流側(写真左側)に傾倒する
気仙沼線の橋脚**

本吉地区を 14:30 頃に出発し歌津地区に向かう。歌津地区では国道 45 号の歌津大橋周辺が大きな被災を受けている。コンクリート巻立てにより耐震補強された橋脚が壊れている(P.12)ほか、樋門および付帯施設に大きな変状が見られる(P.13)。



**P.12 国道 45 号の橋脚
コンクリートで巻立て補強した部分が剥離する**



P.13 樋門および付帯施設の変状

歌津地区を 15:10 頃に出発し、南三陸町志津川地区へ向かう。志津川地区は防災対策庁舎が無惨な状態に残されている(P.14)。現場には献花台が設置され、千羽鶴や線香が多く供えられており、訪れる人も非常に多い(P.15)。津波は防災庁舎の屋上付近にまで到達したため、鉄骨等の骨組み以外はすべて流されている。防災対策庁舎がある位置は、町の中心に近い場所にあるため、標高が高い山麓まではかなり遠い。谷幅が広い場所での津波避難は非常に難しいと感じた。



P.14 南三陸町 防災対策庁舎

この日の視察は南三陸町までとして、一路、宿泊地の松島町へ向かう。松島駅近隣の旅館で宿泊(P.16)。



P.16 旅館での夕食



P.15 防災対策庁舎正面入り口跡

視察 2 日目(女川～大川地区～石巻～野蒜海岸)

9/15 朝、松島駅にて大嶋さんと合流する。普段からよく会う人であっても、いつもと違う場所で再会すると何故か心躍る。

8:00 に松島町の旅館を出発し、万石浦北岸を通過して女川に入る。

女川は北西方向に細く延びる湾に開けた町であり、被害は女川港周辺が大きい。港の近隣には天地が逆さまになった状態の床版橋(P.17)や、倒壊して腹が見えている建物が多く残されている。中には鋼管杭基礎をもつ建物が杭が切断された状態で横たわっている(P.18、P.19)。



P.17 天地が逆転した床版



P.18 鋼管杭が切断されて横たわる建物



P.19 女川町地域医療センターから町を展望
町は壊滅し、ほとんど何も残っていない

女川港の西側には女川町地域医療センターがある(P.20)。ここの地盤高は標高約 15m であり、津波は医療センターの 1 階まで到達したとのことである。そのため浸水高は 20m 近くであったことが推察される(P.21)。この地区のすべての建物は屋根以上高さまで津波が来たことになる。



P.20 のり枠上にある女川町地域医療センター
医療センターの標高は 15m。



P.21 津波が遡上したと考えられるライン
津波は医療センターの 1 階まで到達している。

女川を 9:30 に出発し、旧大川小学校へ向かう。その道中、地元のおじさんの乗用車が路肩にはまっていた(P.22)。我々や他の通りすがりの人たちで車の救出を試みる。近くの水産物工場からもフォークリフトが到着し、懸命の作業を続ける。しかし、我々の力および、JAF の力を借りることとなった。おじさんは幸いにも無傷であった。片側両輪が脱輪した場合は、おとなしく JAF を呼ぶべきであることを皆で確認しあい、先を急いだ。



P.22 おじさんの車を救出
フォークリフトで持ち上げ中。

10:30 頃、旧大川小学校に到着する。この場所は北上川の河口から約 4km の位置である(P.23)。小学校校舎の屋根の高さは北上川の堤防高さと同程度である。地震発生直後、大川小学校では生徒教員全員がグラウンドに集合していた。校舎南側には斜面があり、ここへ登れば津波から逃れることができただろうが、急峻な地形で階段もないため、全員がそこへ避難することは困難であっただろう。また、津波が迫ってくる様子は、校舎の影に隠れてグラウンドからは確認できないため、突然水が押し寄せた状況だったと思われる。現在、グラウンドの斜面側端には慰霊碑が建てられており、地域住民や学校関係者、子供等の名前が石碑に刻まれている。年齢は書かれていないが、今どきの名前が多いことが見受けられ、言葉に詰まる。



P.23 旧大川小学校全景(写真中央の山の向こう側が北上川河口)

大川地区を 11:00 頃出発し、昼過ぎに石巻に入る。この日は朝から今にも泣き出しそうな空模様であったが、石巻に到着する直前から激しい豪雨に見舞われた。時間雨量 26.5mm(連続雨量 44mm)の雨であった。石巻市街地内は地盤沈下のため内水氾濫がしばしば生じており、当日も 30cm 程度浸水した地域があった。我々の車も危うく浸かってしまうところであった(P.24)。昼食は石巻復興商店街にてラーメンを食す(P.25)。復興商店街



P.24 石巻市内の内水氾濫
乗っていた車からの撮影

は 10 件程度の飲食店が集まったものであり、作りは簡素である。雨にもかかわらずかなりの盛況ぶりであった。

昼食後は日和山に車で上って石巻の町を展望する。街にがれきはほぼ残っていない。その後、青年部会長たつての希望により、石ノ森章太郎が作り出したマンガのミュージアム『石ノ森萬画館』に立ち寄る。入り口には津波遡上高が記されている(P.26)。仮面ライダーの絵の前で指さしている筆者の身長は 170cm であるため、3.5m 程度まで津波が到達したことがわかる。その後、館内を見学する。受付ではサイボーグ 009 のキャラクターに扮した受付のお姉さんと記念撮影(P.27)。とても満足する。



P.25 石巻復興商店街



P.26 石ノ森萬画館の入り口にある
津波遡上高を示すシール



P.27 受付のおねえさん
サイボーグ 009 のコスプレはとても似合っていた。

石ノ森萬画館を 14:30 に出発し、この日最後の視察場所である野蒜(のびる)海岸へ向かう。野蒜海岸は石巻湾の西部に位置する砂州海岸である(P.28)。計画堤防高の丁張りから津波対策規模の大きさを感ずることができる(P.29)。



P.28 野蒜海岸全景



P.29 野蒜海岸の計画堤防高

この日の視察は野蒜海岸までとして、一路仙台の町へ向かう。最後の宿泊日ということもあり、贅沢に牛タンコースを堪能する。肉厚かつジューシーな牛タンを肴に、皆で本視察の感想を話し合う。迫りくる台風 18 号の影響が気になりながらも、その日はしこたま吞んで、20 畳程度の部屋で皆で仲良く就寝。



P.30 仙台の夜を堪能

視察 3 日目(仙台～仙台空港～出雲)

9/16 は大型の台風 18 号の接近により、予定を切り上げて朝一番の仙台発の飛行機で帰路につく(P.31)。後でわかったことだが、我々が搭乗した飛行機の次便からはすべて欠航であったようだ。井上会長の的確な判断に皆が助けられた。伊丹空港を経て 12 時過ぎに出雲空港へ到着する。14 時には帰宅し妻に土産話を聞かせる。しかし、あまり興味を持って聞いてくれない。どうも土産の牛タンのほうが気になるようだ。



P.31 雨の仙台空港



P.32 快晴の出雲空港